

## アートでの地域活性化プロジェクト 「アーティスト・イン・レジデンス」 による移住交流

近年、アートで地域活性化を目指す動きが活発になっている。アートの島として全国的に有名な直島は、1980年代後半にベネッセが行ってきたアート活動により、現在では年間約35万人もの観光客が訪れるまでになった。

そして、いよいよ愛媛県東温市でも今年度より「アート・ヴィレッジ『とうおん』」構想を始動させた。これは、坊っちゃん劇場を核として、「創造発信の拠点」、「国際的な文化・観光交流の拠点」、「人づくり・まちづくりの活動拠点」の三つをコンセプトし、アートをきっかけに交流人口ひいては移住者を増やすことを目的としたプロジェクトである。このプロジェクトをミッションとする地域おこし協力隊も今年度より委嘱し、すでにアーティストの誘致など様々な活動を始めている。

### 35000人を動員した 小さなまちのアートイベント

実は移住者の手によってアートでまちを盛り上げた事例が、岡山県久米郡美咲



日本棚田百選にも選ばれた、美咲町「大坪和西棚田」

町にある。美咲町は日本棚田百選にも選ばれた「大坪和西棚田」や卵かけごはんで知られ、町内の大半を山林が占める約1万5000人のまちである。2016年に開催されたアートイベント『美咲芸術世界』は、国内外のアーティストが滞在し公開制作の場とした「アーティスト・イン・レジデンス」が実施された。「アーティスト・イン・レジデンス」とは、アーティストを一定期間ある土地に滞在させ、創作活動を行わせる事業をいう。兵庫県豊岡市にある「城崎国際アートセンター」や山口県美祿市の「秋吉台国際芸術村」などが国内での先進事例として有名である。

『美咲芸術世界』のメイン会場は「旧大坪和小学校」という合併により廃校となった施設。地域住民たちの協力により整備・開放され、国内外12アーティストが滞在した。ここでは滞在し制作するだけでなく、制作途中の作品や現場を惜しげもなく一般公開した。さらにアーティスト自身が作品を紹介し会場を案内するなど、アーティストと来場者との交流も生まれた。これが一般的なアートギャラリーとは異なる「アーティスト・イン・レジデンス」の魅力である。美咲町を拠点としては初となる、この大規模なアートプロジェクトは、町人口の2倍強となる約35000人を動員、県内外や海外からの来場者で賑わった。大盛況となったこの『美咲芸術世界』のルーツは、このイベントをオーガナイズした楽画鬼氏のパリでの活動



えひめ移住  
コンシェルジュ  
**板垣 義男**



「アーティスト・イン・レジデンス」の様子



時代にまでさかのぼる。

## 横浜、パリ、そして岡山県美咲町へ

神奈川県横浜市に生まれ育った楽画鬼氏は、学生時代からアーティストとして活動し2002年に渡仏、パリでのアート活動を本格的にスタートする。そこで共同アトリエ「59 RIVOLI（リヴォリ通り59番地）」に出会う。「59 RIVOLI」は、パリの一等地に立地する空き施設となった銀行の旧オフィスを、常時30人を超える世界各国のアーティストがスクウォット（空き家や土地を占拠するという行為）し芸術活動をする場所であった。フランスの現代美術施設としては入場者数第3位の記録を持ち、現在もパリの人気アトリエスポットとなっている。彼はまさに本場パリのゼリラの「アーティスト・イン・レジデンス」に衝撃を受け、「59 RIVOLI」に合流していくのである。

その後、彼はパリ滞在中に旅行で友人家族の住む美咲町を訪れる。大井和西棚田をはじめとする美咲町の自然の美しさに魅了され、パリでの9年にわたる活動を経て2011年に美咲町への移住を決意。移住後、旧保育園を改修した「アート&ヨガ道場 喫茶去（キツサコ）」をオープンし、地域との交流を深めながら、美咲町を拠点として精力的にアーティスト活動を行っていく。

この頃、瀬戸内国際芸術祭（2010年に第1回開催）が開催されるなど、瀬戸内海周辺ではアートによる交流イベントの動きが徐々に活発になっていった。楽画鬼氏も様々なアートプロジェクトに参加することになるが、その中でも岡山県主催「アートプロジェクトおかやま」で行った「アートオキユバ（OCUPA 占拠）プロジェクト」（岡山県高梁市にて開催）は、彼がパリ時代から推奨し続けていた「街の中、日常の中にもっとアートを。」というコンセプトを継承するもので、のちの『美咲芸術世界』で行う「アーティスト・イン・レジデンス」のプロトタイプとなった。

## アートプロジェクトによる移住定住促進

そして地元住民の協力や近隣エリアでのアートプロジェクトの後押しにより、念願の『美咲芸術世界』が誕生した。このプロジェクトでは、楽画鬼氏の呼びかけで当時の「59 RIVOLI」で活動していたメンバーも多く参加することとなった



「59RIVOLI」元メンバーが多く参加し創作活動を行った

が、その中のひとりである土屋洋介氏は、美咲町という土地の美しさや地域住民の温かさ



『美咲芸術世界』により地域住民とアーティストが一体となった

に感銘を受け、今年度より美咲町の地域おこし協力隊となり地域に入って活動している。このようにアートによる地域活性化プロジェクトは、一過性の交流イベントとして終わるものでなく、その後の移住定住において重要な役割を果たすのである。参加アーティスト達は、約1ヶ月間美咲町に滞在し地域の様々な行事に積極的にも参加することで、地元住民との交流を深めていった。これによりアーティスト側は美咲町を故郷と感じ、住民側はアートによる交流を確信したのである。今後も美咲町という舞台で更なる移住交流が続いていくであろう。愛媛県でもこのような事例を参考に、演劇や音楽なども含めたアートによる地域の活性化、移住定住促進を期待したい。